

# ヒアリ

目科名：ハチ目アリ科  
学名：Solenopsis invicta  
原産地域：南アメリカ

## 【どんな被害を引き起こすのか】

### 生態系：在来アリの駆逐

- ・在来アリの駆逐
- ・小動物を食べて減少させる

### 産 業：農作物への被害

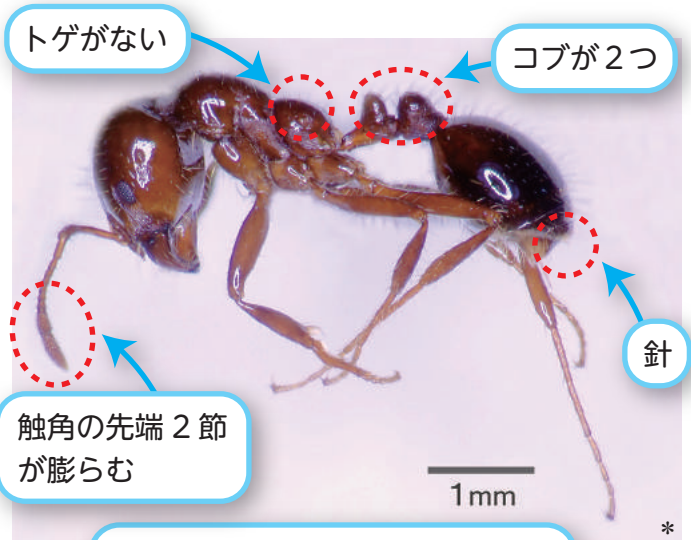
- ・農作物をかじり品質や収量を低下させる
- ・家畜を襲う
- ・農作業をする人が頻繁に刺され、耕作放棄や離農者が増加した例あり

### 生 活：停電や火災の発生

- ・電気設備に営巣し、信号機等を故障させる
- ・電線をかじり停電やショートを引き起こす

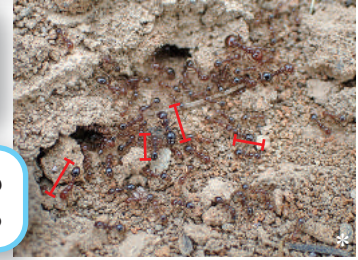
### 健 康：お尻の針で刺す

- ・刺されると強い痛みが生じ、体質等によっては強いアレルギー反応(アナフィラキシーショック)を起こすおそれがある



- ・体色は赤茶色。腹部はやや暗めの色
- ・全体的に光沢がある

<体長>  
女王アリ 約8mm  
働きアリ 2.5～6mm



同じ働きアリでも  
大きさがばらばら

## 【生息場所・行動・食べ物】

- ・開けた草地を好む
- ・高さ40cm、最大直径100cmに達するドーム状のアリ塚をつくる
- ・アリ塚が大きく目立つようになるまでには、2～3年かかる
- ・日本各地の気候条件をもとにした予測では、東北地方南部まで生息可能
- ・巣を刺激すると、集団で現れて防衛
- ・大顎で咬んで体を固定させてから、腹部の針で繰り返し刺す
- ・雑食性で、花蜜、樹液、種子、昆虫、トカゲ等の小型脊椎動物を食べる



アリ塚

## 【どこまで広がっているか】

### 長野県では

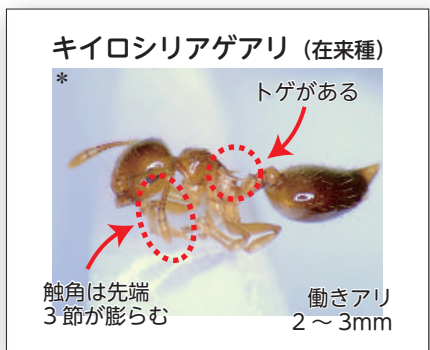
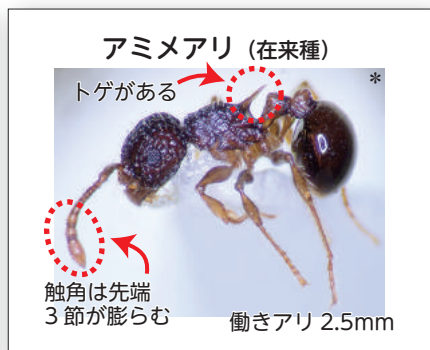
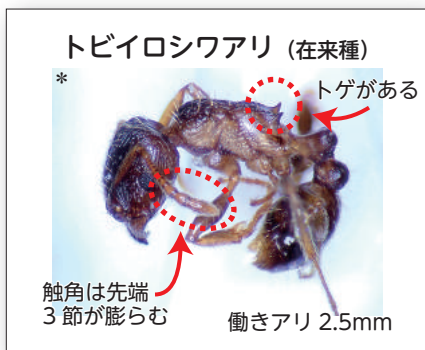
- ・2019年12月現在、県内での分布なし

### 全国では

- ・2017年、兵庫県のコンテナで発見を機に全国の港での発見が相次ぐ
- ・2019年12月までに48例が確認
- ・2019年10月に、東京都の青梅ふ頭で多数の女王アリを含む500匹以上から成るコロニーを確認



## 【間違わないで！】



## 【発見したときは】

- 疑わしいアリを見つけた場合は、触らない
- 巣を刺激しない！（突ついたりしない）
- 環境省ヒアリ相談ダイヤル（0570-046-110）か、お住まいの市町村または県地域振興局環境課に連絡する
- 同じようなアリが発見現場の周りにいないか観察し、可能な範囲で集団の状況を把握する
- 少数個体のみであればスプレーや液剤、熱湯等で駆除する（駆除した個体は、種を特定するために必要です）
- 発見場所が段ボールやコンテナ内で、個体が多数いた場合は速やかに密封・目張り等をする  
難しい場合は、刺激せずそっとしておく

## 【刺されたときは】

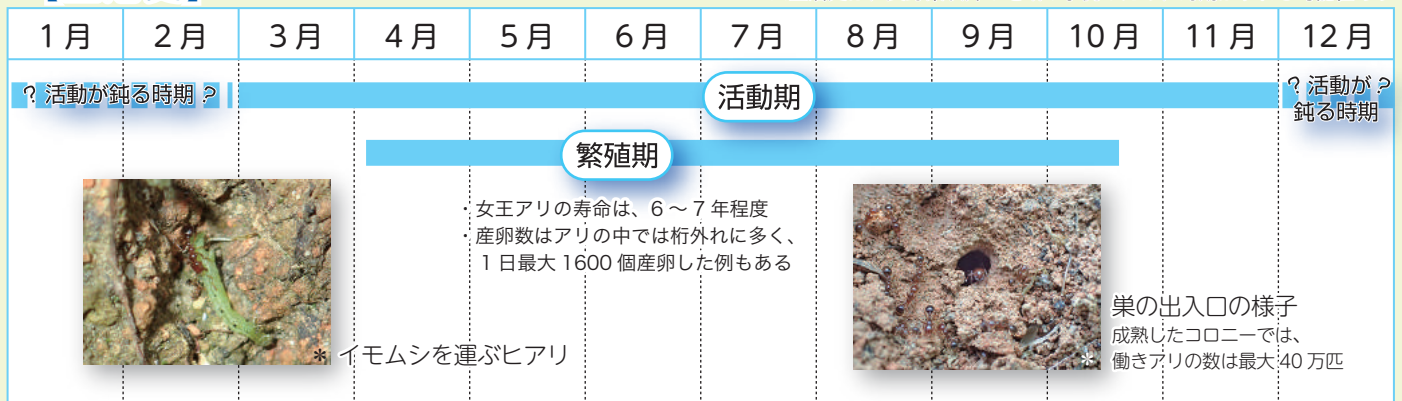
- 刺されると、アルカロイド系の毒によって非常に激しい痛みを覚え、水泡状に腫れる
- 刺された直後
  - ・ 刺された場所を冷たいタオルや保冷材で冷やす
  - ・ 20～30分程度は横になる等ゆっくり休み、じんましん等の体調の変化がないか注意する
  - ・ 軽度の症状のみであり、悪化する様子がなければ、その後医療機関を受診
- 容体が変化した場合（呼吸が苦しい、激しい動悸、めまい等）
  - ・ 症状が急速に進むため、一番近い医療機関をすぐに受診
  - ・ 受診時は、「アリに刺されたこと」「アナフィラキシー症状の可能性があること」を伝える



軽症の患部の様子（刺されて1日後）

## 【生活史】

※生活史は、長野県以外の地域の事例のため、時期がずれる可能性あり



## 【防除方法】

### 通報 早期発見が最も重要！

- 疑わしいアリがいたら、市町村または県に連絡をする ※生きたまま別の場所に移動させないこと

### 殺虫剤での個体の駆除 拡大を防ぐ

- 疑わしいアリを発見したら、まずは殺虫剤（スプレーか液剤）もしくは熱湯を個体に直接散布
- 駆除した個体は捨てずに、市町村または県地域振興局環境課に連絡（種が特定できていなくてOK）

### 巣の駆除 根絶を目指す

- ◎ 主に市町村や地域振興局が担当します
- ◎ ヒアリの巣の駆除を検討される場合は お住まいの市町村または県地域振興局環境課にご相談ください
- ベイト剤の設置は、巣の範囲の把握状況によって方法が異なる ※ベイト剤とは、餌として巣に持ち込まれるタイプの殺虫剤のこと
  - ・ 巣の範囲が分かっている場合  
巣の範囲を囲むように、液剤を散布し、ベイト剤を設置する
  - ・ 巣の範囲が不明の場合  
トラップによるモニタリング等によって巣の範囲をできるだけ特定し、ベイト剤を設置する（巣の範囲を特定する前に液剤散布をしてしまうと、女王アリが逃げ出してしむことがある）

- 実施時期は、活動が活発な時期
- ベイト剤及び液剤は、市販のアリ用の遅効性の薬剤を使用

※間違えて在来アリを駆除すると、かえってヒアリが定着しやすくなる可能性があります

地上で見られる個体は、地域に生息している集団のごく一部。そのため、これらの個体を殺虫するだけでなく、巣にいる多くの個体を効率的に駆除する必要があります。

# アカカミアリ

目科名：ハチ目アリ科  
学名：*Solenopsis geminata*  
原産地域：北アメリカ南部～中央アメリカ

## 【どんな被害を引き起こすのか】

### 生態系：在来アリの駆逐

- ・鳥のひなや爬虫類の幼体、チョウの幼虫や卵を食べる
- ・硫黄島では他の在来アリ類を駆逐し最優占種に

### 産 業：農作物への被害

- ・農作物の害虫であるアブラムシを増やす

### 生 活：停電や火災の発生

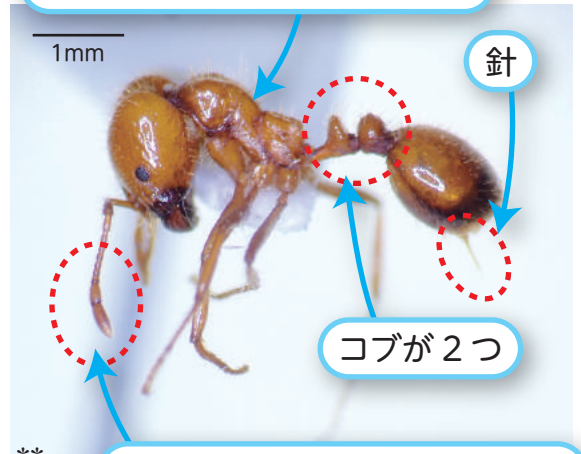
- ・配電盤等に侵入し、配線をかじる

### 健 康：お尻の針で刺す

- ・毒の強さはヒアリほどではないが、アレルギーの症例は多く、アナフィラキシーショックを起こす場合もある



脚、胸部、腹部に立毛が多い



コブが2つ

触角の先端2節が大きく膨らむ

## 【生息場所・行動・食べ物】

- ・裸地や草地等の開けた環境に生息し、土中に営巣
- ・働きアリは、数千～10万匹に達することもある
- ・巣に刺激を与えると、集団で現れて腹部の針で激しく刺す
- ・ヒアリのようなドーム状のアリ塚は作らない
- ・雑食性
- ・高い採餌能力をもち、草の種子や他の小型節足動物等を食べる



アカカミアリの巣

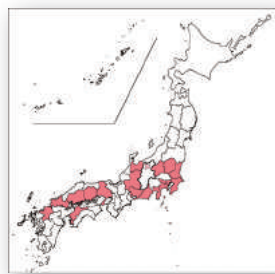
## 【どこまで広がっているか】

### 長野県では

- ・2018年4月に長野市で確認
- ・2019年12月現在、県内での分布なし

### 全国では

- ・硫黄島で定着
- ・沖縄本島、伊江島、南鳥島で記録があり、米軍物資輸送と関連した侵入との推測
- ・2017年以降、東京や兵庫等、全国の港で確認



2019年現在  
確認事例あり

- ・全体が黄褐色～赤褐色で光沢がある
- ・大型の働きアリでは頭部が巨大化する



女王アリ 7～8mm

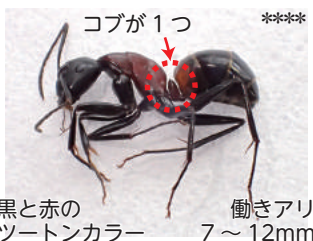


働きアリ 3～5mm

## 【間違わないで！】

### ムネアカオオアリ (在来種)

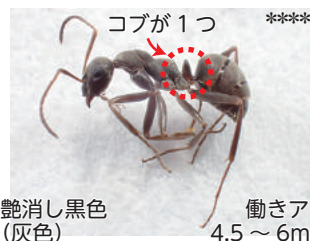
コブが1つ \*\*\*



黒と赤のツートンカラー 働きアリ 7～12mm

### クロヤマアリ (在来種)

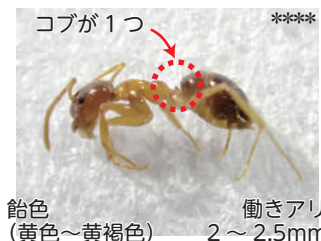
コブが1つ \*\*\*\*



艶消し黒色(灰色) 働きアリ 4.5～6mm

### アメイロアリ (在来種)

コブが1つ \*\*\*\*



飴色(黄色～黄褐色) 働きアリ 2～2.5mm

## 【発見したときは】

- 疑わしいアリを見つけた場合は、触らない
- 巣を刺激しない！（突ついたりしない）
- 環境省ヒアリ相談ダイヤル（0570-046-110）か、お住まいの市町村または県地域振興局環境課に連絡する
- 同じようなアリが発見現場の周りにいないか観察し、可能な範囲で集団の状況を把握する
- 少数個体のみであればスプレーや液剤、熱湯等で駆除する（駆除した個体は、種を特定するために必要です）
- 発見場所が段ボールやコンテナ内で、個体が多数いた場合は速やかに密封・目張り等をする  
難しい場合は、刺激せずそとしておく

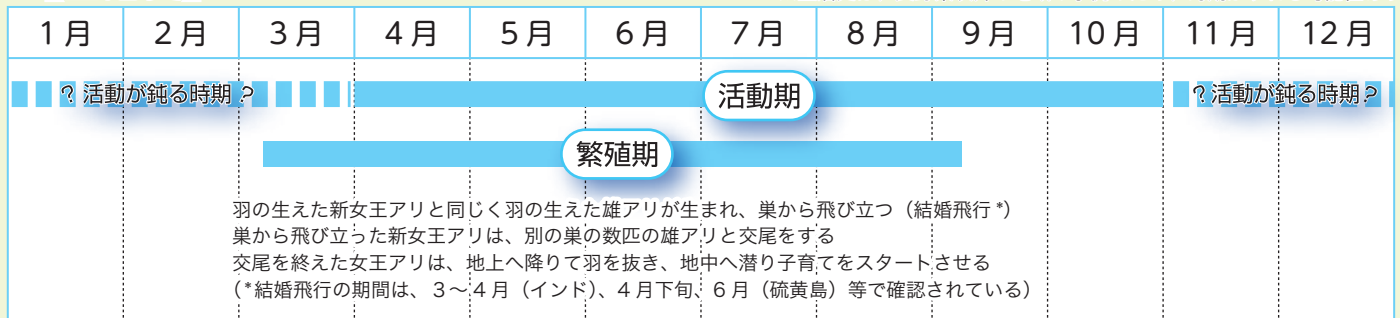
## 【刺されたときは】

※日本においては死亡例なし

- 刺されると、アルカロイド系の毒によって非常に激しい痛みを覚え、水泡状に腫れる
- 刺された直後
  - ・ 刺された場所を冷たいタオルや保冷材で冷やす
  - ・ 20～30分程度は横になる等ゆっくり休み、じんましん等の体調の変化がないか注意する
  - ・ 軽度の症状のみであり、悪化する様子がなければ、その後医療機関を受診
- 容体が変化した場合（呼吸が苦しい、激しい動悸、めまい等）
  - ・ 症状が急速に進むため、一番近い医療機関をすぐに受診
  - ・ 受診時は、「アリに刺されたこと」「アナフィラキシー症状の可能性があること」を伝える

## 【生活史】

※生活史は、長野県以外の地域の事例のため、時期がずれる可能性あり



## 【防除方法】

### 通報 早期発見が最も重要！

- 見慣れないアリがいたら、市町村または県に連絡をする ※生きたまま別の場所に移動させないこと

### 殺虫剤での個体の駆除 拡大を防ぐ

- 疑わしいアリを発見したら、まずは殺虫剤（スプレーか液剤）もしくは熱湯を個体に直接散布
- 駆除した個体は捨てずに、市町村または県地域振興局環境課に連絡（種が特定できていなくてOK）

### 巣の駆除 根絶を目指す

- ◎主に市町村や地域振興局が担当します
- ◎アカカミアリの巣の駆除を検討される場合は お住まいの市町村または県地域振興局環境課にご相談ください
- バイト剤の設置は、巣の範囲の把握状況によって方法が異なる ※バイト剤とは、餌として巣に持ち込まれるタイプの殺虫剤のこと

#### ● 巣の範囲が分かっている場合

巣の範囲を囲むように、液剤を散布し、バイト剤を設置する

#### ● 巣の範囲が不明の場合

トラップによるモニタリング等によって巣の範囲をできるだけ特定し、バイト剤を設置する  
 （巣の範囲を特定する前に液剤散布をしてしまうと、女王アリが逃げ出してしむことがある）

- 実施時期は、活動が活発な時期
  - バイト剤及び液剤は、市販のアリ用の遅効性の薬剤を使用
- ※間違っ在来アリを駆除すると、かえってアカカミアリが定着しやすくなる可能性があります

地上で見られる個体は、地域に生息している集団のごく一部。そのため、これらの個体を殺虫するだけでなく、巣にいる多くの個体を効率的に駆除する必要があります。

# アルゼンチンアリ

目科名：ハチ目アリ科  
学名：*Linepithema humile*  
原産地域：南アメリカ

## 【どんな被害を引き起こすのか】

**生態系：在来アリの駆逐・生物多様性の低下**

- ・在来アリの巣を襲って生息数を減少させる
- ・種子散布や花粉媒介に貢献する在来アリ等の昆虫類にも影響を与えるため、在来植物にも影響を及ぼすおそれ

**産 業：農作物への被害**

- ・柑橘類、サトウキビ、トウモロコシ等の芽、花、実を破壊、種子を食べる
- ・農作物の害虫であるアブラムシを増やす

**生 活：家屋への侵入**

- ・住宅に入りこみ、食品にたかる
- ・就寝中、布団の中にまで入って体中を這ったり咬んだりして安眠を妨害（毒性はない）



- ・体色は、淡黒褐色
- ・体形は細長く、触角が長い

<体長>  
女王アリ 4.5 ~ 5mm  
働きアリ 2.5 ~ 4mm

行列をつくり、高速（速いと4~5cm/秒、1秒間に体長の10倍以上の距離）で移動する様子は、在来アリには見られない

## 【生息場所・行動・食べ物】

- ・働きアリの活動温度帯は5~35℃で冬でも休眠しない
- ・1つの巣に1000頭を超す女王アリが存在（多女王制）することがあり、繁殖力が驚異的
- ・地表付近の様々な隙間に営巣し、荷物や鉢植え等にも営巣する
- ・建物の中まで行列が入る
- ・柑橘類やイチジク等の果物、サトウキビ、トウモロコシ、ワタ等の種子を食べる

## 【どこまで広がっているか】

**長野県では**

- ・2019年12月現在、県内での分布なし

**全国では**

- ・1993年に広島県廿日市市での確認が最初
- ・2018年までに東京、神奈川、静岡、愛知、岐阜、京都、大阪、徳島、兵庫、岡山、広島、山口で定着を確認



- ・一見、黒っぽく見えるが、よく見ると褐色
- ・やや透明感のある体色

## 【間違わないで！】

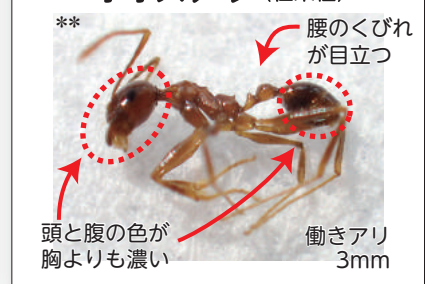
**ルリアリ（在来種）**



**トビイロケアリ（在来種）**



**オオズアリ（在来種）**

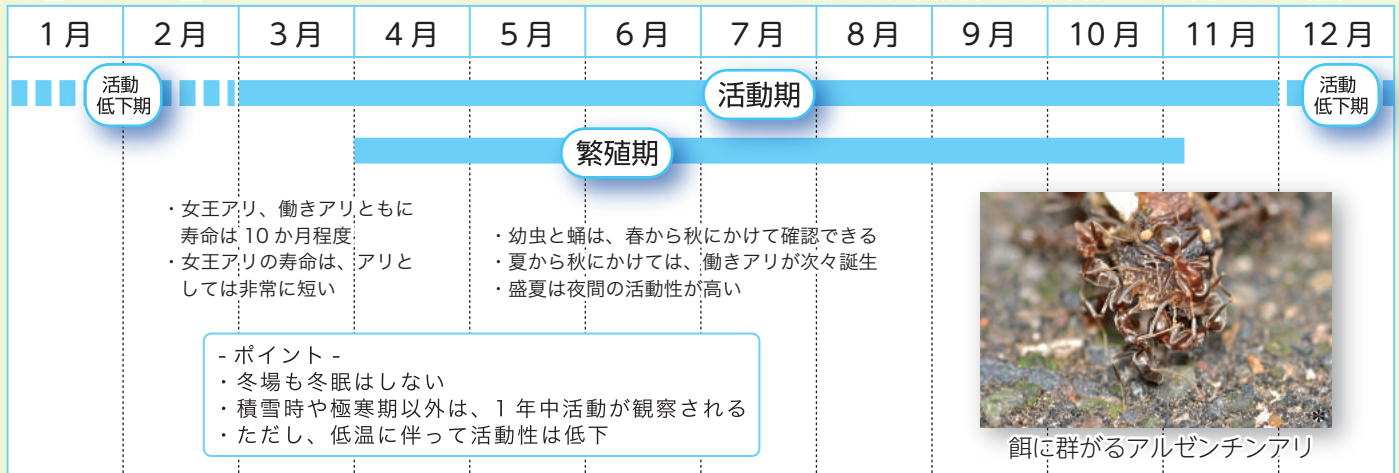


## 【発見したときは】

- 同様なアリが発見現場の周りにいないか観察し、可能な範囲で集団の状況を把握する
- お住まいの市町村または県地域振興局環境課に連絡する

## 【生活史】

※生活史は、長野県以外の地域の事例のため、時期がずれる可能性あり



## 【防除方法】

### 通報 早期発見が最も重要！

- 見慣れないアリがいたら、市町村または県に連絡をする  
※生きたまま別の場所に移動させないこと

### 侵入予防 拡大を防ぐ

- アルゼンチンアリの集まりやすい環境をなくす
  - ・地面にじかに物を置かず立て掛けるか、台の上に置く
  - ・食べ物を長時間放置しない

### 殺虫剤で個体の駆除 拡大を防ぐ

- 疑わしいアリを発見したら、まずは殺虫剤（スプレーか液剤）もしくは熱湯を個体に直接散布
- 駆除した個体は捨てずに、市町村または県地域振興局環境課に連絡（種が特定できていなくてOK）

### 巢の駆除 根絶を目指す

- ◎ 主に市町村や地域振興局が担当します
  - ◎ アルゼンチンアリの巢の駆除を検討される場合は お住まいの市町村または県地域振興局環境課にご相談ください
  - ベイト剤の設置は、巢の範囲の把握状況によって方法が異なる ※ベイト剤とは、餌として巢に持ち込まれるタイプの殺虫剤のこと
    - ・ 巢の範囲が分かっている場合  
巢の範囲を囲むように、液剤を散布し、ベイト剤を設置する
    - ・ 巢の範囲が不明の場合  
トラップによるモニタリング等によって巢の範囲をできるだけ特定し、ベイト剤を設置する（巢の範囲を特定する前に液剤散布をしてしまうと、女王アリが逃げ出してしむことがある）
  - 実施時期は、活動が活発な時期
  - ベイト剤及び液剤は、市販のアリ用の遅効性の薬剤を使用
- ※間違っても在来アリの駆除すると、かえってアルゼンチンアリが定着しやすくなる可能性があります

地上で見られる個体は、地域に生息している集団のごく一部。そのため、これらの個体を殺虫するだけでなく、巣にいる多くの個体を効率的に駆除する必要があります。

### ここをチェック！

- 地面にじかに置かれたブルーシート、ベニヤ板、カーペット等
- 地面にじかに置かれた植木鉢、プランター、ブロック等
- 壁のひび割れ、地面と壁の境にある穴等（あらゆる隙間！）
- テーブルの上等に長時間放置した、食べ物や飲み物



壁のひび割れ



地面に置かれたブロック

# クビアカツヤカミキリ

目科名：コウチュウ目カミキリムシ科  
学名：Aromia bungii  
原産地域：中国、モンゴル、朝鮮半島等

## 【どんな被害を引き起こすのか】

### 産 業：果樹への被害

- ・ウメ、モモ、スモモの生産量の大幅減少
- ・生きた木に幼虫が食い入り、形成層を食害することで樹木を衰弱させる

### 生 活：公園木や街路樹の枯死

- ・サクラを枯死させるおそれ

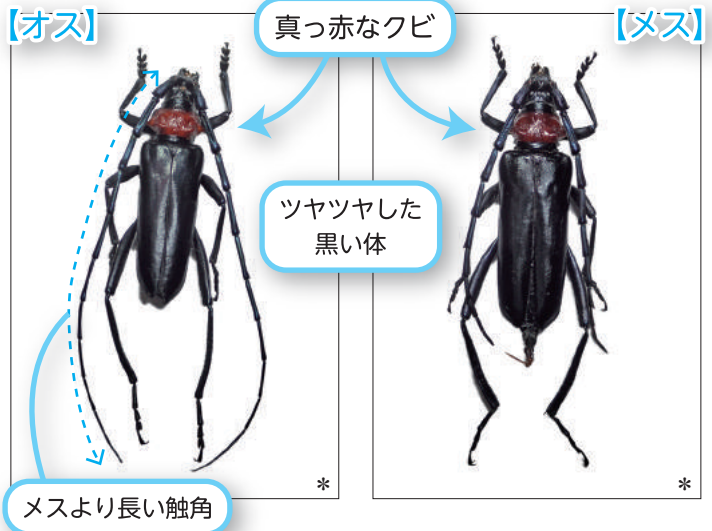
## 【どこまで広がっているか】

### 長野県では

- ・2019年12月現在、確認なし

### 全国では

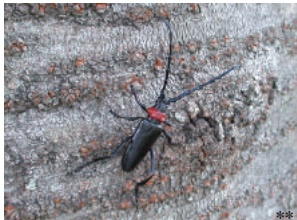
- ・2012年に愛知県で発見
- ・その後、埼玉、群馬、栃木、茨城、東京、三重、大阪、徳島で確認(奈良、和歌山は成虫のみ確認)



- ・体長 2.5 ~ 4.0cm (メスの方が大きい)
- ・オスの触角は体の 1.5 ~ 2 倍の長さ
- ・メスの触角は体と同じかやや長い程度

## 【特性(成虫・幼虫)】

- <成虫> ・昼行性 ・触角を立てて歩く ・素早く動く  
 ・つかむとキーキーと音を出し、噛みつくことがある  
 ・強い臭いがある液体を出す
- <幼虫> ・生きている木に侵入し、中を食い荒らす



成虫



切株から出てきた幼虫

## 【特性(フラス)】

- ・幼虫が木の中を食い荒らす際に、穴から大量のフラス(木くずと糞が混ざったもの)を出す
- ・フラスは株元に大量に溜まる

- ・色は、明るい色
- ・かりんとうのような形状
- ・薄い木くず片を多く含む



株元に溜まったフラス



フラス

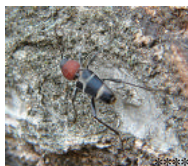
## 【間違わないで！】

### ●大きで見分ける

見た目はやや似ているが、大きさが全く異なる

クビアカ  
トラカミキリ  
(在来種)

体長  
0.7~1.3cm



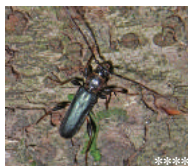
ホタル  
カミキリ  
(在来種)

体長  
0.7~1.0cm



チャイロ  
ホンヒラタ  
カミキリ  
(在来種)

体長  
0.8~1.5cm



ベニ  
カミキリ  
(在来種)

体長  
1.3~1.7cm



### ●フラスで見分ける

似たようなフラスを出すのは、コスカシバとウスバカミキリ

コスカシバ(在来種)



色：部分的に暗い色が混じる  
形状：木くずが少なく顆粒状の糞を多く含む

ウスバカミキリ(在来種)



色：クビアカツヤカミキリと同様に明るい  
形状：繊維状の木くずを多く含む

## 【発見したときは】

- 疑わしい成虫やフラスを見つけたら、大きさが分かるよう写真を撮り、お住まいの市町村または県地域振興局環境課に連絡する
- 成虫の発見時は、被害拡大防止のため、熱湯や農薬登録された殺虫剤、踏み潰す等で可能な限り駆除する
- 成虫を手で捕まえるときは、背中側からつまむと噛まれにくい（虫をつかんだ手で目をこすらない）
- ほかの成虫が発見現場の周りにいないか観察する

※クビアカツヤカミキリは外来生物法により、生きたままの運搬や飼育、保管等が禁止されているので注意

## 【生活史】

※生活史は、長野県以外の地域の事例のため、時期がずれる可能性あり

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
 <p>被害木の樹皮を剥ぐと、たくさんの坑道（幼虫が食べ進んだ痕）が確認できる</p>											
						成虫					
						幼虫					
						・樹木の中で1～3年生活				・冬の間は休眠	
								<ul style="list-style-type: none"> <li>・羽化した成虫は、すぐに交尾を開始</li> <li>・樹皮の隙間に産卵</li> <li>・産卵数は非常に多い（飼育下例で1回1000個以上産卵）</li> <li>・成虫の寿命は2週間以上</li> </ul>			

## 【防除方法】

### 通報 早期発見が最も重要！

- 胸部の赤いカミキリがいたら、市町村または県に連絡をする ※捕獲しても生きたまま別の場所へ移動させないこと

### ネット巻き・捕殺（5～8月） 根絶を目指す

- 羽化して樹木から出てきた成虫を捕獲するために、幹にネット（網）を巻く
  - ・防風ネット（目合い4～5mm程度）、針金、ひも、ペグ等を準備する
  - ・幹を2～3周、高さ1.5～2m程度まで巻けるサイズに、ネットを切る
  - ・幹が二股や三股に分かれている場合は、股の部分にもネットをかける
  - ・ネットを巻付けるときは、木に密着しすぎないように巻く（上はきっちり、下はふんわり巻くと良い）
  - ・上の端は、ひもでしっかり固定して隙間ができないようにする
  - ・下の端はペグ等で地面との隙間がないようにしっかり固定する（裾は内側に織り込む）
- 成虫は、ネットを食い破って脱出したり、ネット内で交尾・産卵することもあるため、成虫の有無を定期的に点検し、ネット内の成虫を駆除する
- 捕獲した成虫は、熱湯や農薬登録された殺虫剤、踏みつぶす等、その場で駆除する



ネット巻き

### 薬剤処理（4～9月） 根絶を目指す

- フラスが出ている穴（排糞孔）に薬剤\*を注入して幼虫を駆除する
  - ※農業を行っている場所で散布する薬剤については登録された薬剤でなければならない
  - ・フラスを千枚通し等で除去する
  - ・薬剤のノズルを差し込み、孔から薬液が溢れるまで注入する
  - ・落ちていたフラスをブラシ等で掃う（フラスの排出が継続するかを観察するため）
  - ・数日後にフラス排出の有無を確認（フラスが出続けていたら、同じ作業を繰り返す）



排糞孔

### 伐倒処分（11～3月） 根絶を目指す

- 幼虫が休眠している時期に、樹木ごと処分する
  - ・切断した幹や枝からも羽化する可能性があるため、伐採後はすみやかに破砕や焼却処分する
  - ・すぐに焼却処分等ができない場合は、ネットやビニールシート等で伐採した樹木を覆って羽化や逸出を防ぐ
- 伐採後の切株も注意
  - ・羽化等を防ぐため、なるべく根も掘り起こす
  - ・掘り起こせない場合は、切株をビニールシート等で覆い、さらにネットで2重に覆う

※クビアカツヤカミキリは、生きたままの運搬、保管が禁止されているが、下記の要件を全て満たした場合のみ例外的に「運搬」「保管」に該当しない

- ・樹木内にいるクビアカツヤカミキリが、その場での殺処分困難な場合、拡散や逸出を防ぐための対策が取られていること
- ・目視で確認できる個体の殺処分を行っていること
- ・防除の実施主体、実施日時等を関係者に事前に周知していること



# セイヨウオオマルハナバチ

目科名：ハチ目ミツバチ科  
学名：*Bombus terrestris*  
原産地域：ヨーロッパ

## 【どんな被害を引き起こすのか】

生態系：在来ハチの駆逐・遺伝的攪乱

- ・交雑や営巣環境の競合による在来マルハナバチ類の減少  
例) 北海道の一部地域では、セイヨウオオマルハナバチの増加に伴い、エゾオオマルハナバチが減少
- ・在来送粉昆虫とのエサをめぐる競合
- ・在来マルハナバチ類により受粉されていた植物が、繁殖できなくなるおそれ

北海道では高山帯でも生息が確認されているため、長野県で定着した場合にも高山帯に進出するおそれ



## 【生息場所・食べ物】

- ・春に女王バチが土の中や地表に巣を作り、働きバチを育てる
- ・多様な花を訪れ、花蜜や蜜を集める（決まった傾向はない）

## 【どこまで広がっているか】

長野県では

- ・2001年に諏訪市、2002年に飯田市で確認
- ・2019年12月現在、自然分布なし

全国では

- ・1991年に静岡県農業試験場で試験導入された後、全国各地で花粉媒介を行う農業資材として導入
- ・1996年に北海道で女王バチの野外越冬や巣を確認
- ・2018年までに28都道府県で目撃情報あり



<体長>  
女王バチ 19~23mm  
雄バチ 約20mm  
働きバチ 12~17mm

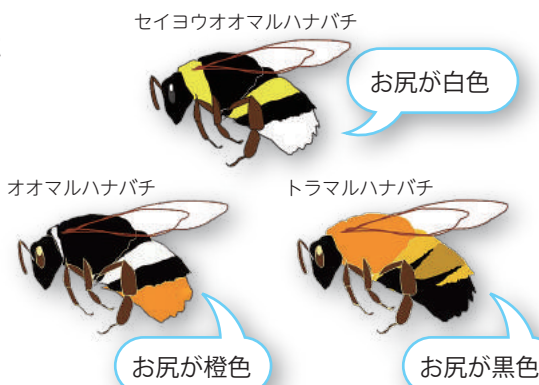
## 【間違わないで！】

- ・日本在来のマルハナバチ属は15種、そのうち長野県では10種が確認
- ・在来マルハナバチで、毛色のパターンが似ている種はいない
- ・体の大きさは、セイヨウオオマルハナバチと在来マルハナバチとで、ほとんど差はない

オオマルハナバチ  
(在来種)



トラマルハナバチ  
(在来種)



## 農家の方へ

- クロマルハナバチ（在来種）への転換を環境省及び農林水産省が推奨しています！
- セイヨウオオマルハナバチを飼養する場合は外来生物法に基づき国（環境省）の許可が必要です  
使用時は、以下の点に注意して下さい

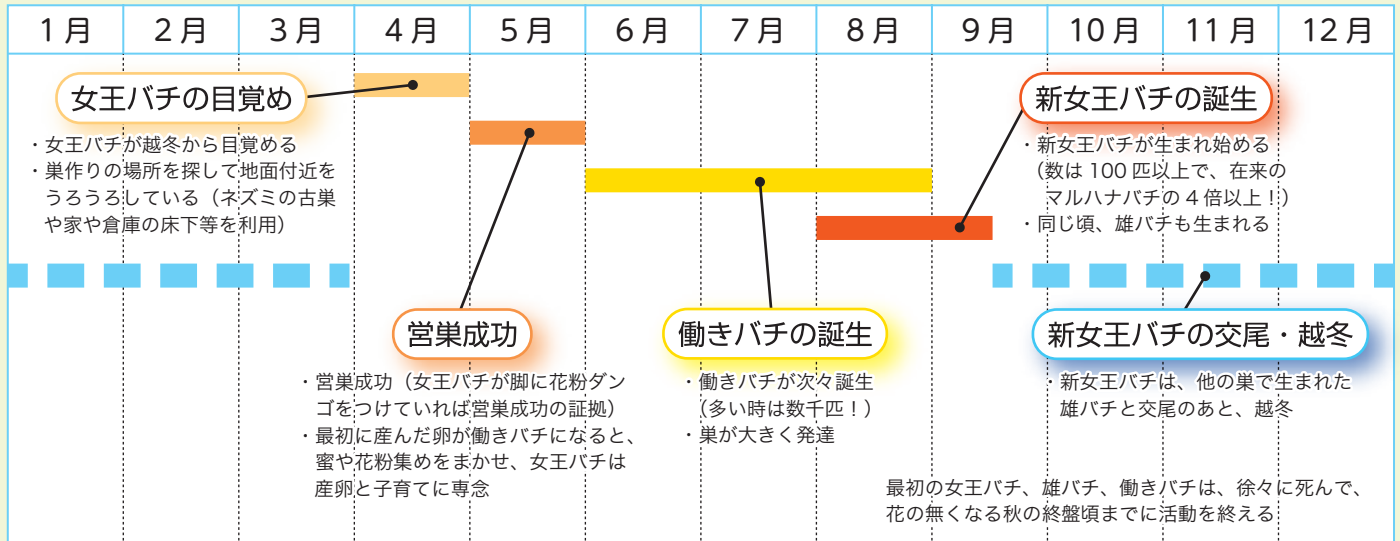
- ・開口部にネットを張り、ハウスからの逸出を防止すること
- ・外部との出入り口の戸は二重以上とすること
- ・ハウス外で巣箱を運ぶ際は、二重囲いにすること
- ・使い終わったハチは確実に処分すること

## 【発見したときは】

- 疑わしいハチを見つけたら、可能な範囲で大きさが分かるよう写真を撮る
- 同じようなハチが発見現場の周りにいないか観察する
- お住まいの市町村または県地域振興局環境課に連絡する

## 【生活史】

※生活史は、長野県以外の地域の事例のため、時期がずれる可能性あり



## 【防除方法】

### 通報 早期発見が最も重要！

- 疑わしいハチがいたら、市町村または県に連絡をする  
※捕獲しても生きたまま別の場所に移動させないこと

### 女王バチ・働きバチの捕獲（4～6月） 根絶を目指す

- 女王バチの捕獲で営巣を阻止、働きバチの捕獲で巣の発達を阻止する
- 花粉や蜜を集めるために花を訪れている時が捕獲しやすい（ハチの動きがゆっくりになるため）
- 捕虫網等を利用して捕まえる
- 捕まえた後は、エタノールや殺虫スプレー等で駆除する

### 巣の駆除（7～9月） 根絶を目指す

- 巣を取り除くことで、新女王バチの誕生を阻止する
- 7～9月は巣が見つかりやすいので、この時期に巣を取り除く
- 巣の出入口をふさぎ殺虫剤を噴霧する等して取り除く
- 巣の排除は、新女王バチが生まれる前までに実施するのが効果的

### 新女王バチの捕獲（8～9月） 根絶を目指す

- 新女王バチを捕獲することで、翌年の巣の誕生を阻止する
- 新女王バチは、越冬までの間、巣から出て飛び回っている
- 捕虫網等を利用して捕まえる
- 捕まえた後は、エタノールや殺虫スプレー等で駆除する

ミツバチ等と比べるとおとなしいハチだが、素手で触ると針で刺されることもあるので注意する

## 【刺されたときは】

- ポイズンリムーバーで毒を吸い出す
- 患部をしぼるようにしながら流水で毒を流し、ばんそうこう等で患部を保護する
- 顔面蒼白、全身の震え、嘔吐等の症状が出た場合は、すぐに医療機関を受診する
- 受診時は、「ハチに刺されたこと」、「アナフィラキシー症状の可能性があること」を伝える



ポイズンリムーバー

# セアカゴケグモ

目科名：クモ目ヒメグモ科  
学名：*Latrodectus hasseltii*  
原産地域：オーストラリア

# ハイイロゴケグモ

目科名：クモ目ヒメグモ科  
学名：*Latrodectus geometricus*  
原産地域：オーストラリア、南アメリカ

## 【どんな被害を引き起こすのか】

**健康：牙で咬む** ・素手で触ったり、捕まえたりしようとすると、咬まれることあり(日本においては死亡例なし)

セアカゴケグモ 上側：メス 下側：オス

<メス>  
・体長 12～15mm  
・脚が細長く、腹部が球形

腹部背面



\* 腹部の背面に目立った赤色の縦帯状の斑紋あり

腹部腹面



腹面には赤い砂時計状の模様あり

<オス>  
・体長 3～4mm  
・メスよりも小型  
・腹部はやや細長く、腹面にはメスと同じ砂時計状の赤い模様あり



\*

ハイイロゴケグモ 左側：メス 右側：オス(いずれも腹部背面)

<メス>  
・体長 7～10mm  
・脚が細長く、腹部が球形

<オス>  
・体長 2.5～4mm  
・メスより小型で、腹部はやや細長い

腹部腹面には砂時計状の淡赤色紋あり



\*\*

・腹部背面に縁取りのある斑紋が点在(斑紋の大きさや形状は様々)  
・腹部背面は灰色から淡褐色で、黒色の個体もあり

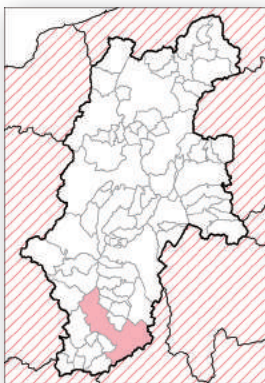


## 【生息場所・行動・食べ物】

- ・日当たりが良い場所や暖かい場所にある物陰や隙間に生息
- ・自然環境の下では、開けた裸地から森林にかけての崖地、岩下の隙間や窪み等に生息
- ・昆虫等を食べる
- ・強い毒性をもつ
- ・咬まれて問題になるのはメスのみ(オスは牙が小さく人の皮膚を刺せないため)

## 【どこまで広がっているか】

セアカゴケグモ



2019年現在  
■ 単発的な確認 ■ 一部地域に定着

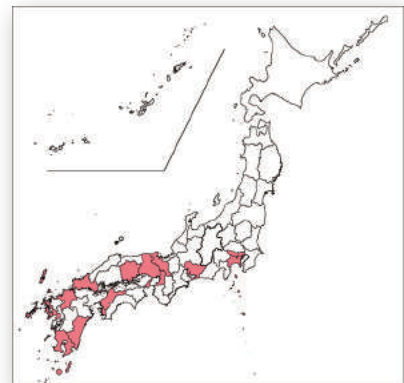
**長野県では**

- ・2019年8月セアカゴケグモを飯田市で初確認(定着は未確認)
- ・ハイイロゴケグモの県内での分布はなし

**全国では**

- ・セアカゴケグモ、ハイイロゴケグモ、いずれも1995年に国内初確認
- ・セアカゴケグモは、2019年現在45都道府県で発見記録があり、西日本では定着している地域も多い
- ・ハイイロゴケグモは、13都府県の主に港付近で発見記録

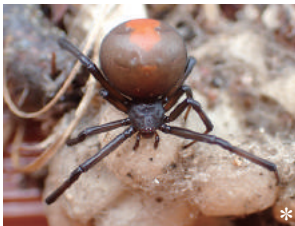
ハイイロゴケグモ



2019年現在  
■ 定着

## 【発見したときは】

- 疑わしいクモを見つけた場合は、触らない  
(素手で触ったり、捕まえたりしようとすると、咬まれることがある)
- 基本的にはおとなしく、攻撃してくることはない  
(脅かされると死んだふりをして動かなくなることも)
- 可能であれば、市販の家庭用殺虫剤をかけたり、靴で踏み潰したりして駆除する  
(駆除した個体は、種を特定するために必要です)
- 同じようなクモが発見現場の周りにいないか観察する
- 大きさが分かるよう写真を撮り、お住まいの市町村または県地域振興局環境課に連絡する  
(発見日時、発見場所、特徴、発見時の状況等)



セアカゴケグモ



ハイイロゴケグモ

## 【咬まれたときは】

※日本においては死亡例なし

### <症状>

- 咬まれると、針で刺されたような痛みを感じ、その後、咬まれた場所が腫れたりする  
(すぐに痛みを感じない場合もある)
- 症状のピークは3~4時間で、数時間から数日で症状は軽減する  
(まれに、脱力、頭痛、筋肉痛、不眠等の全身症状が数週間継続する場合あり)

### <処置>

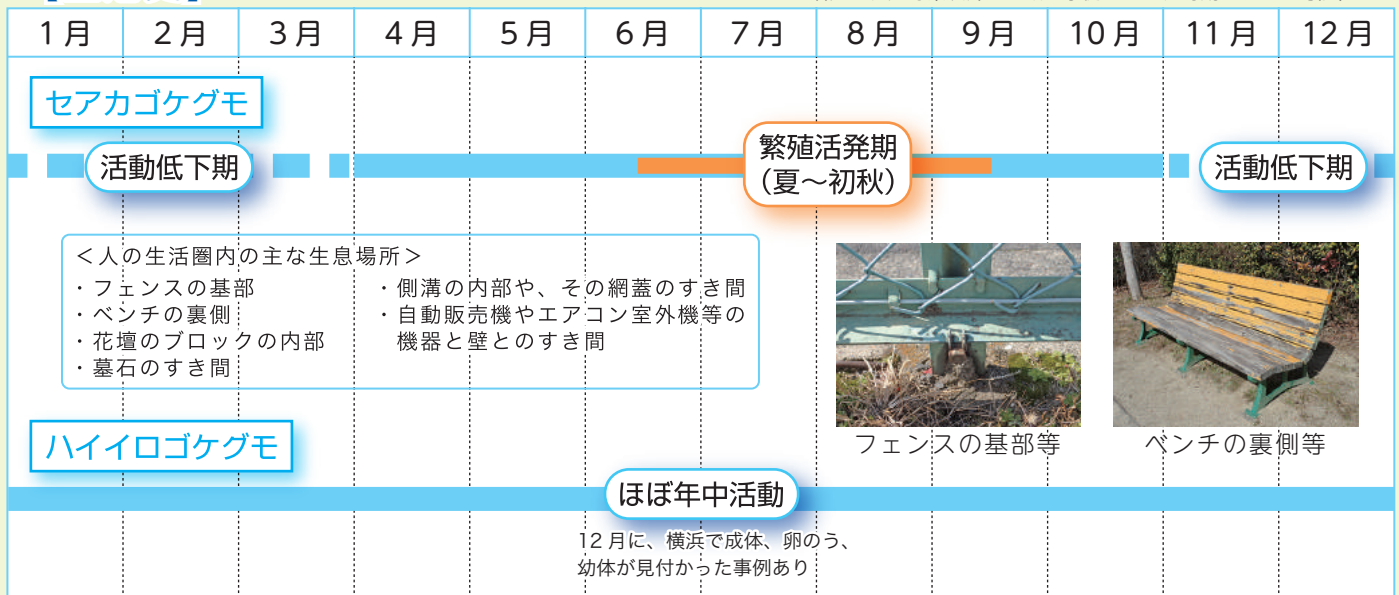
- 咬まれた箇所を水で洗い、患部を冷やす
- 咬まれた場合は重症化することもあるので速やかに医療機関を受診する  
(咬まれたクモを殺して持参すると、適切な治療につながる)

### <咬まれないために>

- 庭の手入れや掃除をする時は、厚手の手袋や靴下を着用する
- 屋外に出っぱなしにしている靴やサンダルを履く時は、中にクモが入っていないか確認する

## 【生活史】

※生活史は、長野県以外の地域の事例のため、時期がずれる可能性あり



フェンスの基部等



ベンチの裏側等

## 【防除方法】

### 通報 早期発見が最も重要!

- 疑わしいクモがいたら、市町村または県に連絡をする ※捕獲しても生きたまま別の場所に移動させないこと

### 巣の駆除 拡大を防ぐ

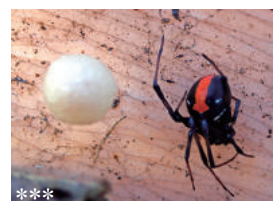
- 巣全体に殺虫スプレーを吹きかける

### 成虫の駆除 拡大を防ぐ

- 殺虫スプレー、踏み潰す、熱湯等で駆除する

### 巣の中の卵の駆除 拡大を防ぐ

- 割り箸等でつまみ、ビニール袋に入れる
- 袋の中に殺虫スプレーを噴射し、踏み潰す
- ビニール袋は、口を縛り、ゴミとして処分する



卵(卵のう)とセアカゴケグモ